



水撚り製法の 和紙糸バッグ

備後撚糸

備後撚糸（福山市）は、「水撚り製法」による和紙糸を使ったバッグや写真やシヨールなどを開発し、本格販売する。OEM（相手先ブランドによる生産）のほか、京都のテキスタイル・染織デザイナー、塩谷栄一氏と組んで、自社ブランドのバッグ「ブーンライト」

「光」を立ち上げる。和紙糸はスリット状の和紙を撚り合わせて糸にするが、切れたり、糸が角ばったりするのが難点。同社の水撚り製法は、和紙を水

と特殊な溶液に漬け、独自改良した撚糸機を使うことで、丸みがあり強度もある糸を開発した。軽さ、通気性、エコロジー性、染色性の良さなどが売り物。綿番手で8番から30番手までを揃える。用途はジーンズやジャケット、ニットなどの各種アウター、インナー、タオル、雑貨と幅広い。

「タオルやシヨール、よこ糸使いのデニムなど糸売りの形で商品化が進んでいるが、「自社で最終製品に仕上げてアピールしないと素材の良さを理解してもらえない」と判断、塩谷氏との出会いもあり、バッグブランドを展開することにした。

ブーンライトは普及版とし小売価格7000、8000円、光は友禅の手描き手法や藍、柿渋染めなども取り入れたタテ糸・ヨコ糸和紙使いの高級品で、高いものは10万円弱を見込んでいる。

1月のIFF（インターナショナル・ファッション・フェア）に出展する予定。